



带状疱疹と予防接種

内科
木田 祐之朗 医師
国保京丹波町病院和知診療所

たいじょうほうしん
带状疱疹は、ウイルスが原因で皮膚の感覚を伝える神経に沿って帯状に発疹を生じる病気です。子どもの時に感染したウイルスがその後も神経の中に潜伏し、加齢や免疫低下に伴って再び活性化することで生じます。主に身体の左右片側に帯状に発疹(ぶつぶつや水ぶくれ)が出て、痛みやかゆみを伴います。発疹は自然に治ることも多いですが、带状疱疹後神経痛という非常に頑固な痛みが長期間残ることがあり、早期発見・早期治療が重要です。

過去になった人も含めて、誰しもが带状疱疹を発症する可能性があり、予防接種が非常に重要です。発症予防だけでなく、発症したとしても带状疱疹後神経痛を残す可能性を下げられます。「生ワクチン」と「不活化ワクチン」がありますが、効果面からは「不活化ワクチン」が望ましいです。2回接種が必要で、費用もかかりますが自治体によって助成制度もあり、可能な限り「不活化ワクチン」を選択することをおすすめします。

带状疱疹のキーワードは「早期発見・早期治療」と「予防接種」です。

キーワード①

早期発見
早期治療



キーワード②

予防接種



発症
予防に



発症後
にも